

常磐大学 地域連携活動事例集



常磐大学地域連携研究支援センター

主な活動内容

地域との連携

P.3～P.16

活動	頁	教育・国際化	地域振興	公共	経済・商品開発	健康・医療・福祉	文化・スポーツ	食物・栄養
空き家リノベーション	P.3		●					
茨城県議会の議員提案条例に関する県議と学生との意見交換会への出席	P.3			●				
茨城県議会保健福祉医療委員会出前委員会の開催と学生傍聴	P.3			●				
茨城県の教員養成に関わる三大学連携事業（オンラインセミナー等の開催）	P.4	●						
茨城県の青少年政策に関する県職員とゼミ生との意見交換会への出席	P.4			●		●		
茨城県北地域魅力発信プロジェクト	P.4		●				●	
茨城県立水戸南高等学校キャンパスエイド	P.4	●						
いばらきの地魚プロジェクト	P.5				●			●
梅染め・組紐プロジェクト	P.5	●					●	
笠間市古民家再生プロジェクト	P.5		●					
笠間市市政懇談会	P.6		●					
「学校インターンシップA～C」 水戸市内の公立幼稚園・小学校・中学校における学校支援活動	P.6	●						
学校法人常磐大学×水戸ホーリーホックコラボデーにおける 集客イベントの企画・実施	P.6		●				●	
カサマノシネマプロジェクト	P.6		●				●	
噛むかむレシピコンテスト	P.7					●		●
期日前投票所運営支援	P.7			●				
休日議会における大学生と議員との意見交換会への参加	P.7			●				
県議会特別委員会における学生の調査結果の報告	P.7			●				
県内連携病院における臨床研究支援の活動	P.8					●		
高大官連携プロジェクトによる「藤井川ダムカレー」の開発	P.8	●	●		●			
米粉消費拡大プロジェクト	P.8				●			●
仕事と家庭の両立プログラム	P.9			●		●		
地元銀行へのヒアリング活動	P.9				●			
地元企業への企業ウェブサイト開発	P.9				●			
社会福祉士実習指導者講習会の開催	P.9					●		
商品販売促進イベントの企画・実施	P.10				●			
世界のおもてなし料理プロジェクト	P.10						●	●
大切な人を亡くした子どもをサポートする 「グリーフサポートいばらき・ぶるーすかい」の活動	P.10					●		

活動	頁	教育・国際化	地域振興	公共	経済・商品開発	健康・医療・福祉	文化・スポーツ	食物・栄養
地域在住外国人のためのボランティア日本語教室の開催	P.10	●						
「ときわ祭」での看護学部学生とくれよん工房（社会福祉法人）との連携	P.11					●		
常磐大学高等学校における主権者教育授業	P.11	●		●				
「常磐大学×株式会社マルト商事」商品開発プロジェクト	P.11				●			●
常磐大学総合政策学部ビジネスアイデアコンテスト	P.11		●		●			
「鳥羽田ふれあいまつり」の企画・運営	P.12	●					●	
那珂市静峰ふるさと公園八重桜まつり企画提案及び参加	P.12		●					
二元代表制を極めるシンポジウムの開催	P.12			●				
日本語学校留学生のための日本語支援ボランティア活動	P.12	●						
東日本技術研究所における社員研修	P.13	●						
常陸太田市市民提案型まちづくり事業への申請・採択	P.13		●					
ひたちなかプロジェクションマッピング2023inひたちなか開運鐵道神社	P.13		●				●	
病院－大学連携事業「TOKI²プレナース1日体験」の企画・運営	P.14	●				●		
防災レクレーション「防災ジャンボかるた」の開発・実施	P.14	●						
みとかい	P.14					●		
水戸市学生食育サポーター	P.14	●						●
水戸市協働事業提案制度「わくわくプロジェクト」	P.15		●					
水戸市日本語プレ初級クラスサポーター活動	P.15	●						
水戸市の新たなふるさと納税返礼品開発プロジェクト	P.15			●	●			●
水戸市の政策提言プロジェクトに参加	P.15			●				
みなへそ文化祭	P.16	●	●					
若者によるエビデンスに基づく政策提言発表会	P.16			●				

地域への還元
P.17

地域との連携

本学の学内資源（知的資源、人的資源、物的資源など）を開放し、地域社会の発展や課題解決に寄与するため、自治体・企業・団体等と連携して多岐にわたる活動を行っています。

※教員の所属・職名は2023年度現在を記載しています。

空き家リノベーション

活動時期	2023年度
活動場所・地域	ひたちなか市
学内参加主体	人間科学部コミュニケーション学科 准教授 小佐原孝幸、学生サークル「M4」
協力団体	特定非営利法人MMMみなとメディアミュージアム
概要	ひたちなか市空家等対策推進室からの依頼で行った、那珂湊駅前にある空き家のリノベーション。 実施日：2023年5月6日（土） 場所：みなへそ（茨城県ひたちなか市釈迦町7-15）
成果	粗大ゴミの撤去、外壁の塗り替えなどを行い、空き家はコミュニティスペース「みなへそ」へと生まれ変わった。



茨城県議会の議員提案条例に関する県議と学生との意見交換会への出席

活動時期	2022年度
活動場所・地域	茨城県議会
学内参加主体	総合政策学部法律行政学科 教授 吉田勉、吉田ゼミナール3年生3名
協力団体	茨城県議会
概要	茨城県議会において議員提案で立案された「性暴力の根絶を目指す条例」について学生の立場から意見・提案を行う会議に出席した。
成果	先行する大阪府条例・福岡県条例の運用状況を考察した学生の意見や自らの体験により身近にある性被害の実情などについての意見等が県議会に採り入れられて条例の制定につながった。



茨城県議会保健福祉医療委員会出前委員会の開催と学生傍聴

活動時期	2022年度
活動場所・地域	常磐大学 見和キャンパス
学内参加主体	2022年度保健師課程を専攻し、「公衆衛生看護管理論」を履修する4年生20名
協力団体	茨城県議会保健福祉医療委員会
概要	本学において県議会保健福祉医療委員会を開催し、学生が陪席傍聴し意見交換を行った。「茨城県議会保健福祉医療委員会」の出前委員会は県の議会活動を県民の身近なものにするために企画されている。
成果	保健師（行政職）を目指す参加学生の代表が、茨城県民への訪問看護サービスにおける役割や、看護職の人材育成に関するコメントを述べ、政策につながる議論の一端に参加できた。



茨城県の教員養成に関わる三大学連携事業(オンラインセミナー等の開催)

活 動 時 期	2018年度～
活 動 場 所・地 域	常磐大学 見和キャンパス
学 内 参 加 主 体	教職センター センター長・人間科学部教育学科 特任教授 小島睦、 人間科学部教育学科 准教授 石崎友規、教育学科の2年生及び教職課程履修者(2019年度以降参加者合計約400名)
協 力 団 体	茨城大学、茨城キリスト教大学、茨城県教育研修センター(順不同)
概 要	茨城大学、茨城キリスト教大学、常磐大学による「三大学教員養成連携協議会」を実施し、茨城県教育研修センターとも連携しながら、教職課程履修者を対象としたセミナーを共同開催した。
成 果	三大学が連携し、主に教員という職業の魅力をテーマとしたシンポジウムや座談会形式でのオンラインセミナーを実施した。各大学を卒業した若手教員を招聘し、大学を超えて、学生が抱える悩みに向き合うことができた。

茨城県の青少年政策に関する県職員とゼミ生との意見交換会への出席

活 動 時 期	2022～2023年度
活 動 場 所・地 域	常磐大学 見和キャンパス
学 内 参 加 主 体	総合政策学部法律行政学科 教授 吉田勉、吉田ゼミナール2年生・3年生27名
協 力 団 体	茨城県福祉部子ども政策局青少年家庭課
概 要	「子どもの貧困」「一人親世帯」「インターネットの利用環境」「青少年政策のあり方」の4つのテーマに分かれて意見交換が行われた。意見交換会は2年連続で行われた。
成 果	学生の発言・意見内容が県の新たな青少年政策立案に対するヒントとなり、引き続き県の政策運営に興味関心を持つことにつながった。



茨城県北地域魅力発信プロジェクト

活 動 時 期	2022年度～
学 内 参 加 主 体	総合政策学部経営学科 教授 村中均、村中ゼミナール学生
協 力 団 体	茨城県政策企画部県北振興局
概 要	県北地域の魅力発信強化を目指し、SNS(Instagram、TikTok)による県北地域の情報発信とオンラインアンケート調査を実施してきている。
成 果	2022年度はInstagramにより県北地域動画(県北高校フシギ部の事件ノート)に関する情報発信を行い、今後の県北地域のPR方法等を提案した。2023年度はTikTokを使用し、「エモい」をコンセプトにした県北地域PR動画(18本)を作成した。

茨城県立水戸南高等学校キャンパスエイド

活 動 時 期	2015年度～
活 動 場 所・地 域	茨城県立水戸南高等学校
学 内 参 加 主 体	人間科学部心理学科 准教授 島田茂樹、心理学科学生9名
協 力 団 体	茨城県教育委員会、茨城県立水戸南高等学校(順不同)
概 要	フレックススクールの生徒の居場所作りの一環として大学生がキャンパスエイドとして生徒の話を聴いたり、生徒の支援にあたっている。
成 果	フレックススクールのキャンパスエイド室において、生徒より年長のお兄さん、お姉さんの役割で話を聴くことによって、学校の中に生徒の居場所を作ることができた。

いばらきの地魚プロジェクト

活 動 時 期	2020年度～
学 内 参 加 主 体	人間科学部健康栄養学科 准教授 飯村裕子、飯村ゼミナール学生7名 総合政策学部経営学科 教授 村中均、「マーケティング演習」履修学生、村中ゼミナール学生
協 力 団 体	・茨城県農林水産部漁政課 ・茨城沿海地区漁業協同組合連合会（いばらきの地魚認証委員会事務局） ・茨城水産株式会社 ・常洋水産株式会社 ・株式会社文化メディアワークス ・株式会社ヨークベニマル （順不同）
概 要	「若者の魚離れ問題」の解決のために、「どうしたら自分たちと同世代が魚に興味を持ち、食べようと思ってくれるか」について検討し、オンラインアンケート調査を実施し、地魚PRのための動画の作成と茨城のマサバを使用した商品開発を行った。
成 果	動画は、RPGゲーム風とクッキングバトルの2本を作成し、HPやスーパー店頭で公開した。また、SNSによる地魚の情報発信、オンラインアンケート調査の結果を受けて3本の動画を作成し、HPで公開した。 商品は「IBARAKI SABA CURRY」「IBARAKI SABA TOMATO」の2種類を作成し、現在も店舗で販売されている。 「いばらきデザインセレクション2021」（2021年12月 主催：茨城県）：【選定】（ソーシャルデザイン部門）受賞。 2021年度 常磐大学学長賞受賞。



梅染め・組紐プロジェクト

活 動 時 期	2022年度～
活 動 場 所 ・ 地 域	水戸市、フィリピンBago市他
学 内 参 加 主 体	総合政策学部総合政策学科 准教授 小関一也、小関ゼミナール学生、学生ボランティアサークル「フェアリーテイル」
協 力 団 体	・水戸ユネスコ協会 ・組紐鈴木屋 ・公益財団法人オイスカ Bago Training Center(フィリピン) ・茨城県立水戸工業高等学校 ・市民グループ「木漏れ陽」他 （順不同）
概 要	梅染めと組紐の魅力を伝えるワークショップを国内外で開催した。フィリピン・ネグロス島では、現地の生産者と交流し、水戸の梅染めとフィリピンの自然染めを組紐にしたフェアトレード商品を共同開発した。
成 果	年6回のワークショップを通して、水戸工業高等学校や市民グループの「木漏れ陽」の皆さんなど多くの方と交流することができた。共同開発したフェアトレード商品は、地域の市民イベントに参加し、展示・販売した。



笠間市古民家再生プロジェクト

活 動 時 期	2022年度
活 動 場 所 ・ 地 域	笠間市富田家住宅主屋ほか
学 内 参 加 主 体	総合政策学部総合政策学科 教授 砂金祐年、塩雅之、正木聡、砂金ゼミナール学生、正木ゼミナール学生
協 力 団 体	笠間市教育委員会教育部生涯学習課
概 要	総合政策学部の学生有志は、笠間市教育委員会と協力し、笠間市古民家再生プロジェクトに取り組み、富田家住宅主屋は、江戸時代末期に建築された古民家で、2022年10月に国の登録有形文化財として正式に登録された。
成 果	笠間市教育委員会を招いて富田家住宅主屋の活用案の報告会を行い、総合政策学科の正木ゼミ4年生、同ゼミ3年生、砂金、小関ゼミの3年生の3つのグループがそれぞれ活用案をプレゼンテーションした。



笠間市市政懇談会

活動時期	2022年度
活動場所・地域	常磐大学 見和キャンパス
学内参加主体	総合政策学部総合政策学科 教授 砂金祐年、正木聡、砂金ゼミナール学生、正木ゼミナール学生
協力団体	笠間市市長公室秘書課
概要	常磐大学と笠間市は2007年に連携協定を締結し様々なかたちで協力し合い、政策懇談会は政策や地域活性化について学んでいる総合政策学科生たちと、実際の市政を担う山口伸樹笠間市長がまちづくりについて話し合う。
成果	学生たちからたくさん質問が飛び交い、山口市長は質問のひとつひとつに丁寧に答えて頂き、また、市長から学生たちに質問するなど、活発な意見交換が行われた。質問した学生から2023、2024年度に笠間市採用者が出た。



「学校インターンシップA～C」
水戸市内の公立幼稚園・小学校・中学校における学校支援活動

活動時期	2019年度～
活動場所・地域	水戸市内各学校
学内参加主体	人間科学部教育学科 特任教授 小島睦、准教授 渡邊洋子、佐藤賢一郎、助教 杉山大幹、教育学科の1・2年生及び教職課程履修者(2019年度以降参加者合計約250名)
協力団体	水戸市教育委員会
概要	教育学科開講科目「学校インターンシップA～C」として、水戸市内の公立幼稚園・小学校・中学校(12校程度)を学生が訪問し、学校支援活動を行った。
成果	各学校での様々な教育活動に参加し、学校支援を行った。子どもたちと関わる中で、学生自身のキャリア形成につながったほか、授業外に学校ボランティア活動を行うための関係性を構築することができた。

学校法人常磐大学×水戸ホーリーホックコラボデーにおける集客イベントの企画・実施

活動時期	2010年度～
活動場所・地域	水戸市
学内参加主体	総合政策学部経営学科 教授 村中均、「マーケティング演習」履修学生
協力団体	株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック
概要	2010年度より常磐大学は、水戸ホーリーホックとの連携協定をもとにした「学校法人常磐大学×水戸ホーリーホックコラボデー」(公式試合)を実施しており、その中で経営学科は集客につながるイベントを提案・実施してきた。
成果	2010年度より累計62の集客イベントを実施してきている。



カサマノシネマプロジェクト

活動時期	2019～2020年度
活動場所・地域	笠間市地域交流センターともべ 他
学内参加主体	総合政策学部総合政策学科 教授 塩雅之、正木聡、准教授 町英朋、人間科学部心理学科、コミュニケーション学科、総合政策学部総合政策学科学生7名
協力団体	笠間市政策企画部企画政策課
概要	カサマノシネマは、笠間市で記録された昭和の8ミリフィルムから地域に眠る記憶を掘り起こし、市の呼びかけで常磐大学生が中心となり集め、市民と学生が参加しながら地域映画を制作するプロジェクト。
成果	学生は半年間にわたり、8ミリフィルムの基礎から映像、音声制作、インタビュー方法、映像編集、ポスター制作までを、地域映画制作者、作家、デザイナーから指導を受けて、2021年3月に地域映画を完成させた。



噛むかむレシピコンテスト

学 内 参 加 主 体	人間科学部健康栄養学科 応用栄養学担当教員、健康栄養学科学生
協 力 団 体	公益社団法人茨城県歯科医師会
概 要	歯科保健と食育の在り方に関する検討会(厚生労働省)において、ひとくち30回以上噛む事を提唱。茨城県歯科医師会では、食育促進のため、「噛むかむレシピコンテスト」を開催し、噛む大切さを啓発・普及している。
成 果	よく噛むことの大切さや歯と口腔の健康づくりを普及・啓発するために行われるレシピコンテストで、応募は健康栄養学科の授業と連動させ、毎年、多くの学生が趣向を凝らしたアイデアレシピを提案している。

期日前投票所運営支援

活 動 時 期	2016年度～
活 動 場 所 ・ 地 域	常磐大学 見和キャンパス
学 内 参 加 主 体	総合政策学部総合政策学科 教授 砂金祐年、砂金ゼミナール学生
協 力 団 体	水戸市選挙管理委員会
概 要	各種選挙において常磐大学構内に設置される期日前投票所において、学生が立会人を務めているほか、投票率向上のための様々な取り組みを実施している。
成 果	オリジナルのチラシの作成とときわんこによる配布、ウエルカムドリンクの提供、簡易託児所の設置など、毎回趣向を凝らして投票率の向上に努めている。



休日議会における大学生と議員との意見交換会への参加

活 動 時 期	2023年度
活 動 場 所 ・ 地 域	茨城県議会
学 内 参 加 主 体	総合政策学部法律行政学科 教授 吉田勉、吉田ゼミナール3年生の14名
協 力 団 体	茨城県議会の各常任委員会
概 要	茨城県議会への県民参画の取組として休日に議会の常任委員会を開催し、希望する県民が委員会執行部席に着席して県議との意見交換を行う場にゼミナール学生も参加した。
成 果	少子化問題を議論する保健福祉委員会に出席したゼミナール学生からは学費や奨学金の返還等の負担についての配慮が重要である等の意見を退出し、新聞掲載もされ、議員からも貴重な意見である旨の表明があり、学生・議員お互いにおいて意義深い会合であることが認識された。

県議会特別委員会における学生の調査結果の報告

活 動 時 期	2023年度
活 動 場 所 ・ 地 域	茨城県議会
学 内 参 加 主 体	総合政策学部法律行政学科 教授 吉田勉、吉田ゼミナール3年生4名
協 力 団 体	誰もが輝く持続可能な茨城を担う人づくり調査特別委員会(茨城県議会)
概 要	ゼミ生が県内学生の結婚観・子育て観に関するアンケート・ヒアリングを実施し、その成果を県議会外部有識者として出席し報告を行った。
成 果	県内大学学生に対するアンケートや未婚者へのヒアリングの分析結果を特別委員会に報告し、議員との意見交換を行ったが、貴重な報告として高い評価をいただき、特別委員会の報告書にも記載されることになった。



県内連携病院における臨床研究支援の活動

活 動 時 期	2018年度～
活 動 場 所 ・ 地 域	独立行政法人国立病院機構 ・水戸医療センター ・霞ヶ浦医療センター
学 内 参 加 主 体	看護学部看護学科 《2018～2022年度》 准教授 萩野谷浩美、福田大祐、専任講師 菅原直美、田村麻里子、南雲史代、 助教 井上顕子、及川けい子、脇田泰章 《2023年度現在》 准教授 萩野谷浩美、福田大祐、専任講師 山口幸恵、助教 梅井尚美、脇田泰章
協 力 団 体	独立行政法人国立病院機構 ・水戸医療センター ・霞ヶ浦医療センター （順不同）
概 要	各施設との連携協定のもと臨床現場の看護師を対象とした研究支援を行っている。年間研修として看護研究の基礎的知識を修得する基礎コースと研究を主体的に実践し成果を発表する実践コースを設けて活動が続けている。
成 果	これまで両コース合わせて約500名の看護師の参加があり、約90課題の臨床研究を支援してきた。研修前後のアンケートでは例年高い研修満足度と目標達成度が得られており、実践コースでは院外での研究発表も行っている。



高大官連携プロジェクトによる「藤井川ダムカレー」の開発

活 動 時 期	2017年度
活 動 場 所 ・ 地 域	城里町
学 内 参 加 主 体	総合政策学部総合政策学科 教授 砂金祐年、 砂金ゼミナール学生12名
協 力 団 体	・茨城県立水戸桜ノ牧高等学校常北校 ・城里町まちづくり戦略課 （順不同）
概 要	城里町の知名度アップのため地元の藤井川ダムをモチーフにした「藤井川ダムカレー」を開発した。
成 果	クラウド・ファンディングで開発資金138万円を調達、開発に成功した。現在、町営健康増進施設「ホロルの湯」で販売中である。



米粉消費拡大プロジェクト

活 動 時 期	2019年度～
活 動 場 所 ・ 地 域	水戸市
学 内 参 加 主 体	総合政策学部経営学科 教授 村中均、 村中ゼミナール学生
協 力 団 体	水戸市穀物改良協会（水戸市産業経済部農政課）
概 要	2019 年度は米粉に関するアンケート調査を実施し、2020 年度はSNSによる米粉の情報を発信し、2021 年度はSNSによる米粉スイーツの情報発信と米粉の認知・イメージに関するオンラインアンケート調査を行い、2022 年度は、水戸産米粉商品PR 資材の提案、SNS による PR（商品と店舗）、さらに販売促進のためのオンラインアンケート調査を実施し、2023年度はSNSによるPR（商品と店舗）を行った。
成 果	2023年11月1日発行の水戸市の広報誌である「広報みと」に、米粉消費拡大プロジェクトの内容が特集記事として掲載された。

仕事と家庭の両立プログラム

活動時期	2020～2022年度
活動場所・地域	水戸市役所、水戸市男女平等参画センター「びよんど」
学内参加主体	人間科学部現代社会学科 教授 水嶋陽子、准教授 小森田龍生、水嶋ゼミナール学生・小森田ゼミナール学生(2022年度のみ) 各年度15～20名
協力団体	水戸市市民協働部男女平等参画課
概要	男女平等参画課、ファミリーフレンドリーな企業と連携し、未就労の若者を対象とする、仕事と家庭の両立体験プログラムを用意した。本学学生はそのプログラムに参加し、事前事後のアンケートに応じた。
成果	学生たちが協力したアンケートは、今後の若者向け啓発プログラムを作成するためのデータとして活用される。またこれから就職活動にとりくむ学生にとっては、ロールモデルとなる人たちとの交流が可能になった。

地元銀行へのヒアリング活動

活動時期	2023年度
学内参加主体	総合政策学部経営学科 教授 文堂弘之、文堂ゼミナール3年生
協力団体	・株式会社常陽銀行 ・株式会社筑波銀行（順不同）
概要	地方銀行におけるNISAおよび環境問題への取り組みを調査する。
成果	日銀グランプリに応募する論文を作成し、優秀賞を受賞した。



地元企業への企業ウェブサイト開発

活動時期	2023年度
学内参加主体	総合政策学部経営学科 教授 文堂弘之、准教授 奥野辰広、経営学科3年生
協力団体	・株式会社アプリシエイト ・水戸市 ・水戸商工会議所 ・Procafe ・釜人鉢の木（順不同）
概要	ウェブサイトを使用していない協力企業2社（Procafe、釜人鉢の木）に学生がウェブサイトを制作する。
成果	ウェブサイトがない企業に、本格的で効果のあるウェブサイトを提供することができ、学生にICTマーケティングの実践的な連携活動経験を提供することができた。



社会福祉士実習指導者講習会の開催

活動時期	2021～2022年度
活動場所・地域	茨城県社会福祉協議会
学内参加主体	人間科学部現代社会学科 准教授 若林功、助教 平塚謙一
協力団体	・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟茨城支部 ・社会福祉法人茨城県社会福祉協議会（順不同）
概要	社会福祉士の実習には、施設側の指導者が養成講習を受講していることが必要だが、これまで茨城県内で講習会が開催されてこなかった。そこで社会福祉士の施設側の実習指導者を養成するための講習会を開催した。
成果	2021年度は40名、2022年度は31名が受講した。施設指導者の指導スキル向上、本学等茨城県に關係する社会福祉士養成校にとっての社会福祉士の実習先の拡大、養成校と実習施設の連携の強化につながった。

商品販売促進イベントの企画・実施

活 動 時 期	2010年度～
活 動 場 所 ・ 地 域	水戸京成百貨店
学 内 参 加 主 体	総合政策学部経営学科 教授 村中均、「ビジネス専門演習b」履修学生
協 力 団 体	株式会社水戸京成百貨店
概 要	2010年度より1月上旬2日間にわたって百貨店内での商品販売促進(実際に商品を販売する)イベントを行っている。イベント実施前の3か月間はSNSを利用したPRを行う。
成 果	2010年度より累計34の商品販売促進イベントを実施してきている。2015年度に常磐大学学長奨励賞を受賞。



世界のおもてなし料理プロジェクト

活 動 時 期	2020～2021年度
学 内 参 加 主 体	人間科学部健康栄養学科 准教授 飯村裕子、健康栄養学科学生サークル「食品栄養研究会」9名
協 力 団 体	茨城県県民生活環境部オリンピック・パラリンピック課
概 要	東京オリンピック・パラリンピックで、ホストタウンの茨城県を訪れるベルギーの選手に地元のGAP食材を使用したおもてなし料理を開発した。
成 果	開発した料理は、ベルギーの食文化を生かした「白いワッフル～さつまいもと栗をのせて」と、茨城県の郷土料理を生かした「熱々けんちん汁～国境の壁を越えて～」。これらは「ホストタウンサミット2021」で、発表した。



大切な人を亡くした子どもをサポートする「グリーフサポートいばらき・ぶるーすかい」の活動

活 動 時 期	2019年度～
活 動 場 所 ・ 地 域	常磐大学 見和キャンパス
学 内 参 加 主 体	看護学部看護学科 教授 池内彰子、看護学科専任教員2名
協 力 団 体	・他大学看護学部看護学科教員2名 ・一般ボランティア13名 ・本学卒業生ボランティア38名 (順不同)
概 要	大切な人を亡くした子どもを対象にプログラムを開催した。グリーフに有効とされる作業(遊ぶ・対話する・絵を描く・歌を唄う)を子どもが自由に選び安心して体験できるようにファシリテーターが寄り添いサポートした。
成 果	2019年に2回ワンデイプログラムを開催し、子どもと保護者、合計28名が参加した。また、2020年2月に「グリーフサポートファシリテーター養成研修会」を開催し一般3名、看護学部在学生34名が参加した。



地域在住外国人のためのボランティア日本語教室の開催

活 動 時 期	2022年度～
活 動 場 所 ・ 地 域	水戸市
学 内 参 加 主 体	人間科学部コミュニケーション学科 教授 飯野令子、コミュニケーション学科学生など約20名
協 力 団 体	公益財団法人水戸市国際交流協会
概 要	水戸市国際交流センターでボランティア日本語教室「にほんご水戸の部屋」を週1回開催している。学生と一般市民とが協力し、小・中・高校生から社会人までの、地域在住外国人への日本語支援を行っている。
成 果	2023年度は外国にルーツを持つ小・中・高校生、大学生・社会人合わせて延べ30名ほどの参加者があった。7月と12月には学生と留学生が中心となって教室のお祭りを開催し、地域住民を合わせて60名ほどの参加を得た。



「ときわ祭」での看護学部学生とくれよん工房(社会福祉法人)との連携

活 動 時 期	2018年度～
活 動 場 所・地 域	水戸市
学 内 参 加 主 体	看護学部看護学科学生(2018年度～2023年度の1、2年生)
協 力 団 体	社会福祉法人くれよん(くれよん工房)
概 要	看護学部では、学部創設の2018年度から今年度に至るまで「ときわ祭」で、くれよん工房の利用者の方が作られた菓子類や小物類を学生たちが委託販売したり、学生と利用者の方が一緒に販売することを続けてきた。
成 果	学生がくれよん工房を訪れた際は作業の様子を見学させて頂いたり、さらに「ときわ祭」で学生と利用者が一緒に販売を行う事を通して交流する機会を得たことは、看護学部の学生にとって貴重な経験となっている。

常磐大学高等学校における主権者教育授業

活 動 時 期	2017年度～
活 動 場 所・地 域	常磐大学高等学校
学 内 参 加 主 体	総合政策学部総合政策学科 教授 砂金祐年、 砂金ゼミナール学生
協 力 団 体	・常磐大学高等学校 ・茨城県選挙管理委員会 ・水戸市選挙管理委員会 (順不同)
概 要	常磐大学高等学校の3年生を対象とした主権者教育授業を、県および水戸市の選挙管理委員会と協働で毎年実施している。
成 果	2019年度までは直近の選挙の主な争点を大学生の視点で解説した。2020年度以降は本物そっくりの選挙公報と政見放送動画を用いた模擬投票を実施している。



「常磐大学×株式会社マルト商事」商品開発プロジェクト

活 動 時 期	2022年度～
学 内 参 加 主 体	人間科学部健康栄養学科 准教授 飯村裕子、 飯村ゼミナール学生13名
協 力 団 体	株式会社マルト商事
概 要	管理栄養士を目指す学生の学びを活かしたプロジェクトとして、商品開発を実施した。テーマは「野菜摂取量の増加」であり、茨城県産野菜を使用した商品を検討した。
成 果	開発した商品は、サラダパック、餃子、どら焼きの3品。それぞれに茨城県産の野菜を使用しており、販売時のポップなどにも力を入れた。これら商品は、スーパーマルト36店で販売された。



常磐大学総合政策学部ビジネスアイデアコンテスト

活 動 時 期	2016年度～
学 内 参 加 主 体	総合政策学部経営学科 教授 菅田浩一郎、文堂弘之、 経営学科3年生
協 力 団 体	・公益財団法人いばらき中小企業グローバル推進機構 ・茨城県よろず支援拠点 ・日本政策金融公庫水戸支店 ・株式会社茨城新聞社 ・年度別の協力企業 (順不同)
概 要	各年度にて協力していただける地元企業の経営課題を解決するビジネスアイデアを学生が提案する。
成 果	協力企業に対して、学生らしい斬新なビジネスアイデアを提供することができ、学生には地元企業との実践的な連携活動経験を提供することができた。



「鳥羽田ふれあいまつり」の企画・運営

活 動 時 期	2015年度～
活 動 場 所 ・ 地 域	茨城町
学 内 参 加 主 体	総合政策学部総合政策学科 教授 砂金祐年、 砂金ゼミナール学生
協 力 団 体	・茨城町町長公室地域政策課 ・茨城町鳥羽田区 （順不同）
概 要	茨城町「ふるさと元気づくり事業」の一環として、教員および学生が鳥羽田区に対して三世代交流型のイベントを提案した。
成 果	2015年度より「鳥羽田ふれあいまつり」が開催されている。砂金ゼミナールは祭りの運営のほか「昔遊びコーナー」を開設している。



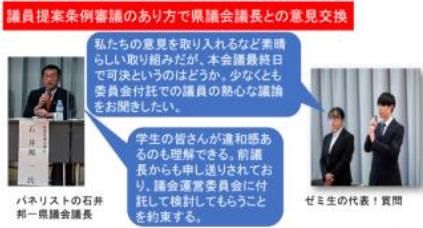
那珂市静峰ふるさと公園八重桜まつり企画提案及び参加

活 動 時 期	2018年度～
活 動 場 所 ・ 地 域	那珂市静峰ふるさと公園 ほか
学 内 参 加 主 体	総合政策学部総合政策学科 教授 正木聡、塩雅之（2018年度のみ）、 正木ゼミナール学生、塩ゼミナール学生（2018年度のみ）10～15名ほど
協 力 団 体	那珂市産業部商工観光課
概 要	那珂市静峰ふるさと公園で毎年行われる八重桜まつりに、2018年度から総合政策学科の正木ゼミナール（2018年度のみ塩ゼミナールも参加）が参加して、事前に企画内容を那珂市商工観光課にプレゼンテーションを行い、実施した。
成 果	来場者が私たちのライトアップの前で足を止め写真を撮り、自身で作成した灯籠と一緒に写真を撮るなど楽しんでいるような様子が伺え、那珂市職員の方々からお褒めの言葉を頂き、期待に応える事が出来た。



二元代表制を極めるシンポジウムの開催

活 動 時 期	2022年度
活 動 場 所 ・ 地 域	常磐大学 見和キャンパス
学 内 参 加 主 体	総合政策学部法律行政学科 教授 吉田勉、 吉田ゼミナール学生14人、その他出席した学生80人
協 力 団 体	・茨城県議会 ・いばらき政策・法務研究会 （順不同）
概 要	議会と首長との対立、議員提案条例等、二元代表制のあり方について学生の調査報告やパネルディスカッションにより理解を深めた。
成 果	県議会議長、水戸市長等をパネリストに招いたディスカッションは200人を超える県民から高い評価をいただいた。また、学生が議員提案条例審議のあり方を提案したことを契機として県議会の改革が進んだ。



日本語学校留学生のための日本語支援ボランティア活動

活 動 時 期	2021年度～
活 動 場 所 ・ 地 域	日立市
学 内 参 加 主 体	人間科学部コミュニケーション学科 教授 飯野令子、コミュニケーション学科学生など
協 力 団 体	日立さくら日本語学校
概 要	2021年度以降、日立さくら日本語学校から依頼を受け、主に日本語教師を目指す学生が、留学生の日本語学習のサポートや、日立国際文化祭りに参加する留学生のサポートなどを行っている。
成 果	毎年11月に行われる日立国際文化祭りに参加する留学生をサポートするため、3、4名の学生がボランティア活動を行っている。その他、日本語学習のサポートは不定期に依頼があり、その都度、学生が対応している。

東日本技術研究所における社員研修

活 動 時 期	2019～2020年度
学 内 参 加 主 体	人間科学部コミュニケーション学科 教授 高木幸子、講師 寺島哲平
協 力 団 体	株式会社東日本技術研究所
概 要	2019年度および2020年度に株式会社東日本技術研究所におけるスキルアップ研修の講師を担当した。
成 果	2019年度は「仕事に対するモチベーション維持と向上」をテーマにオンライン形式で、2020年度は「ビジネスコミュニケーション技術の修得・向上」をテーマに対面形式で社内研修を実施した。



常陸太田市市民提案型まちづくり事業への申請・採択

活 動 時 期	2018・2019年度
活 動 場 所 ・ 地 域	常陸太田市
学 内 参 加 主 体	《2018年度》人間科学部学生8名 《2019年度》人間科学部・総合政策学部学生8名
協 力 団 体	《2018年度》 ・道の駅ひたちおおた（常陸太田市販売流通対策課） ・あひるの工房Café 《2019年度》 ・あひるの工房Café ・常陸農業協同組合太田営農経済センター（順不同）
概 要	地元企業の協力のもと、常陸太田市産里川かぼちゃや米粉等の特産品を用いた生菓子・焼き菓子の開発販売を実施した。また地元商店街のマップ制作も行い広く配布した。
成 果	地元の米粉、特産品を用いた菓子の開発や販売により地産地消を実践し、また、購入者のアンケートから、商品へのニーズや満足度を知ることができた。学生の視点を最大限に活用し、親しみやすく分かりやすいマップは好評を得た。



ひたちなかプロジェクションマッピング2023inひたちなか開運鐵道神社

活 動 時 期	2023年度
活 動 場 所 ・ 地 域	ひたちなか市
学 内 参 加 主 体	人間科学部コミュニケーション学科 准教授 小佐原孝幸、学生サークル「M4」
協 力 団 体	ひたちなかプロジェクションマッピング実行委員会（ひたちなか海浜鉄道株式会社）
概 要	ひたちなか海浜鉄道湊線の鉄道車両へ映像投影をメインに、バンド演奏、キッチンカーを複合した地域活性イベント。 実施日：2023年11月11日（土） 場所：ひたちなか海浜鉄道湊線阿字ヶ浦駅
成 果	「茨城の魅力」をテーマに、県内外の4つの高校（那珂湊高等学校、笠間高等学校、常磐大学高等学校、神奈川工業高等学校）と常磐大学の学生が映像を制作、約300名の来場者が映像と音楽と食事を楽しんだ。



病院―大学連携事業「TOKI²プレナース1日体験」の企画・運営

活 動 時 期	2018年度～ ※2020年度はCOVID-19の影響により中止
活 動 場 所 ・ 地 域	常磐大学 桜の郷キャンパス 他
学 内 参 加 主 体	看護学部看護学科広報委員
協 力 団 体	独立行政法人国立病院機構水戸医療センター看護部
概 要	看護職および本学看護学部への興味を深めるため、看護に関心がある高校生対象に、本学科授業体験、水戸医療センターの看護師との交流を通して、看護学生、看護職の具体的なイメージができるよう運営している。
成 果	毎年、短期間で募集人数に達し、人気が高い。参加者からは、看護や看護職について具体的にイメージでき、より興味をもてたと好評である。その後、本学看護学部へ入学する参加者もいて、学生確保にもつながっている。



防災レクレーション「防災ジャンボかるた」の開発・実施

活 動 時 期	2015年度～
活 動 場 所 ・ 地 域	城里町ほか
学 内 参 加 主 体	総合政策学部総合政策学科 教授 砂金祐年、砂金ゼミナール学生12名
協 力 団 体	・茨城県鹿行生涯学習センター ・古河市大和田地区 ・城里町立桂小学校 他(順不同)
概 要	楽しみながら防災を学び地域の絆を深めるための防災レクレーション「防災ジャンボかるた」を作成した。
成 果	2019年度は桂小学校の全校児童約100名に対し「防災ジャンボかるたを使った防災教室」を実施した。



みとかい

活 動 時 期	2018年度
活 動 場 所 ・ 地 域	常磐大学 見和キャンパス
学 内 参 加 主 体	看護学部看護学科(地域連携委員会、紀要編集委員会、FD委員会)
協 力 団 体	独立行政法人国立病院機構 ・水戸医療センター ・茨城東病院 ・霞ヶ浦医療センター (順不同)
概 要	質の高い実践・教育・研究を行える看護職をとともに育成するための一環として、連携協定を結んでいる左記3施設との共催により、講師を招聘して研修会「論文投稿にチャレンジ!!」を開催した。
成 果	41名の参加があり、概ね満足度は高かった。また、看護研究への意欲が高まったなどの意見がみられた。2019年度以降はCovid-19の影響などにより開催できていないが、再開に向けて検討している。

水戸市学生食育サポーター

活 動 時 期	2015年度～
学 内 参 加 主 体	人間科学部健康栄養学科学生
協 力 団 体	水戸市教育委員会学校給食共同料理場
概 要	健康栄養学科の2～4年生(教職課程履修者含む)が、水戸市立小中学校からの依頼を受け、食育活動の支援員として児童・生徒および保護者に対して食育に係わる情報の提供や活動の補助等を行う。
成 果	依頼に応じて、給食時の食育指導や調理実習の補助などを実施した。また、水戸市全体向けの活動として、給食の献立開発や、食育媒体作成、食育講演会での発表など様々な活動を行っている。

水戸市協働事業提案制度「わくわくプロジェクト」

活動時期	2022年度
活動場所・地域	水戸市
学内参加主体	常磐短期大学幼児教育保育学科 准教授 渡辺賢治、 人間科学部・総合政策学部有志学生5名
協力団体	・水戸市産業経済部観光課 ・一般財団法人水戸市農業公社（森のシェーブル館） （順不同）
概要	ポストコロナ時代の水戸の観光土産品に付加価値を創出することで、観光土産品の魅力向上と水戸市のイメージアップを目的に、産学官が連携し、観光土産品の魅力あるパッケージデザイン制作に取り組んだ。
成果	梅まつりでのパッケージデザイン案のアンケート結果をもとに森のシェーブル館「フロマー ジュ・フレ」の新パッケージを制作。NHK水戸放送局での紹介、水戸市長表敬訪問、茨城県 デザインセレクション出品へと到る。



水戸市日本語プレ初級クラスサポーター活動

活動時期	2020年度～
活動場所・地域	水戸市
学内参加主体	人間科学部コミュニケーション学科 教授 飯野令子、コミュニケーション学科学生
協力団体	公益財団法人水戸市国際交流協会
概要	水戸市国際交流協会が地域在住外国人向けに開催する入門日本語教室で、飯野教授は コーディネーターを務めている。学生は教室の担当講師の指示のもと、教室活動のサポート をボランティアで行っている。
成果	主に日本語教師養成課程の科目を履修する学生が、プロの日本語教師が講師を務める日 本語クラスに参加し、日本語学習を支援する体験をしている。2020年度以降、毎年2、3名の 学生が継続的に参加している。



水戸市の新たなふるさと納税返礼品開発プロジェクト

活動時期	2022年度～
活動場所・地域	水戸市
学内参加主体	総合政策学部経営学科 教授 村中均、「マーケティング演習」履修学生、村中ゼミナール学生
協力団体	・水戸市財務部税務事務所市民税課 ・東日本旅客鉄道株式会社水戸支社 （順不同）
概要	2022 年度に経営学科「マーケティング演習」で水戸市の新たなふるさと納税返礼品開発の提案を行い、2023年度は2022年度に提案の あった案を、実際のふるさと納税返礼品として開発した。
成果	学生が考案した「第20回水戸納豆早食い世界大会参加券（わら納豆12本セット付）」が、2024年1月5日に水戸市から、ふるさと納税返礼 品（水戸黄門ふるさと寄附金の謝礼品）として登録・プレスリリースされた。

水戸市の政策提言プロジェクトに参加

活動時期	2020年度
活動場所・地域	水戸市
学内参加主体	人間科学部現代社会学科 教授 北根精美、准教授 小笠原尚宏、 現代社会学科3年生30名
協力団体	水戸市市民協働部男女平等参画課
概要	「水戸市の若者・女性が活躍できる街づくり」の政策提言に北根ゼミナールおよび小笠原ゼ ミナールの学生が参加し、ゼミナール活動の一環として水戸市の現状をソフト・ハードの両 面から分析し、政策提言を行った。
成果	市長をはじめ市幹部が出席する政策提言会で報告した。このうち小笠原ゼミナールは、18 歳人口の流出過多が続いている現状を踏まえ、「都市としての魅力向上」と「働き場所・働き 方の提示」の2点から提言を行った。



みなへそ文化祭

活動時期	2023年度
活動場所・地域	ひたちなか市
学内参加主体	人間科学部コミュニケーション学科 准教授 小佐原孝幸、学生サークル「M4」
協力団体	・特定非営利法人MMMみなとメディアミュージアム ・茨城県立那珂湊高等学校生徒会 ・ひたちなか海浜鉄道株式会社 ・常陸那珂港振興協会 (順不同)
概要	コミュニティスペース「みなへそ」を拠点とした地域活性イベント。 実施日:2023年9月24日(日) 場所:みなへそ(茨城県ひたちなか市釈迦町7-15)
成果	高校や鉄道、常陸那珂港振興協会と連携して、飲食店、展示、港ツアーなどの企画を実施。 参加者にとって普段知ることのできない地域の魅力に触れる貴重な機会となった。



若者によるエビデンスに基づく政策提言発表会

活動時期	2022年度
活動場所・地域	水戸市役所
学内参加主体	人間科学部現代社会学科 教授 水嶋陽子、水嶋ゼミナール学生15名
協力団体	水戸市市長公室政策企画課
概要	水戸市第7次総合計画策定の一環として、学生たちが若者の立場から市政への提言を行い、市長や関連部長等との意見交換に臨んだ。
成果	「誰もが生涯暮らしやすいまちになるため」として学生が、介護保険申請の説明内容における課題(ジェンダーバイアス)を指摘した結果、水戸市ホームページにおける説明文言が加筆修正された。



地域への還元

本学では、教育研究成果の地域への還元として、さまざまな活動を行っています。

講演会・研修会等への教員の派遣

自治体・企業・団体等が開催する講演会・研修会等へ教員を派遣しています。

審議会等への教員の派遣

本学教員が、専門の知見を活かし学識経験者として自治体等の各種審議会等委員に就任しています。

審議会等への学生の派遣

本学学生が、大学での学びを活かした新しい視点を活用すべく、自治体等の各種審議委員会等に就任しています。

学生のボランティア活動（学生への案内）

学生の地域貢献活動を通じた自己成長の機会として位置づけ、公益性・公共性が高く、学生が行う活動として有益で教育的配慮のある活動の情報を学生に提供しています。

〈過去の案内例〉

- 市町村・社会福祉協議会等の実施する学習支援事業
- 各種社会福祉施設の実施するイベント（夏祭り、収穫祭 他）運営補助
- 地域自治体等で開催されるお祭り・スポーツイベント等における運営補助 など

公開講座「オープンカレッジ」の開講

地域連携研究支援センターの開講する公開講座の総称が「オープンカレッジ」です。本学の持つ教育資源を地域社会へと還元し、人々の多様な学習ニーズに応え、新たな学習意欲や自己実現を支援するとともに、開かれた学びの場として、学習機会を提供しています。

〈近年の開講講座の例〉

野菜の栄養と加工方法、【看護学科企画教養講座】「トキワ de SDGs」あなたの健康寿命を延ばしましょう!、正しく知って正しく使おう健康食品、睡眠と健康、顔とコミュニケーションの心理学、最新・ストレス軽減法を学ぼう!、社会・集団・家族心理学(家族)、発達心理学、知覚・認知心理学(認知)、刑務所の基礎、今を生きるための憲法入門、災害時の市民・コミュニティの役割、日常に役立つAI(人工知能)入門、命について考える、メディアが生成する地域創生と物語の再構築、キャラクターコンテンツと物語の再構築、温泉と人をつなぐもの、佐竹文化の象徴・雪村周継、水戸藩家老結城氏のルーツ、W.シェイクスピア『ジュリアス・シーザー』を読む、蛭川幸雄のシェイクスピア、シナリオを書こう、《神奈川冲浪裏》の謎、美術館の怪人たち、歴史浪漫としての〈明日の国宝〉、バルト三国の合唱音楽、プロムス、その主題と変奏、音楽の〈東欧〉、音楽の北欧、軽度発達障害児の評価と指導、障がい者就労支援の基礎、パネルシアター超入門講座
高校生×SDGs、こどもナース入門 小学生編、こどもプログラミング講座、トキワであそぼ!トキワでまなぼ!～手作り玩具を作ってみよう、トキワであそぼ!トキワでまなぼ!～色・いろ・イロ!、夏休み自由研究のヒントになる体験実験講座～食べ物を使った自宅でもできる体験実験、夏休み自由研究のヒントになる体験実験講座～電気の性質をみてみよう、自由研究に使える!?科学実験講座



社会人向け教養講座の様子



小学生向け体験実験講座の様子



発 行 2024年3月（第2版）

発行者 常磐大学 地域連携研究支援センター
〒310-8585 茨城県水戸市見和1-430-1
TEL.029-232-2652 FAX.029-231-2861
renkei@tokiwa.ac.jp
<https://www.tokiwa.ac.jp/>
